

校長室通信



令和8年1月8日
羽咋市立羽咋中学校
校長 宮下 裕樹
第9号

令和8年は飛躍の年に！

1月の校長室通信には、その年の「えと」に関する話題を最初のくだりとして書いてきました。今年は、十干十二支（じっかんじゅうにし）でいうところの「丙午（ひのえうま）」となります。やや迷信が先行していることは否めない「丙午」の年ですが、「丙」は火の陽の性質、「午」も火の性質を持つため、非常にパワフルなエネルギーを持つ年とされます。情熱的・行動的な意味合いかから、2026年は「活気ある年」「経済が好転する年」と言われています。生徒たちにとっては、様々な活動に積極的に挑戦し、「跳ね馬」のように自分自身を大きく飛躍させる年にしてほしいものです。



生徒、保護者の皆様 あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

3学期が始まりました。3学期は、一番短い学期ですが、生徒にとっても学校にとっても重要な学期です。身に付けなければならない力が本当に付いたかを確認して、足りなければ補充をするとともに、新年度4月になるとそれぞれ進学、進級となることを見据えて、心の構えをつくる最も重要な学期でもあります。充実した学校生活を目指し、生徒、教職員一丸となって努力していきたいと考えています。

さて、学校では授業の最後に、今日の学びに目を向け、考えることを「振り返り」と言っています。英語では「reflection」（リフレクション）と言います。一方、1年生理科の時間に、光が鏡や水面などに当たると、はね返される現象のことを「光の反射」と習います。実は、この「反射」も英語では、リフレクションと言います。「振り返り」とは、過去の出来事や自分の行動をもう一度自分の方へ戻して、考え方を直すことです。外に向かっていたものが自分に折り返させるということに由来しているそうです。皆さんには、この3学期に自分を振り返り、次につなぐ学期にしてほしいと願っています。

花は香り、人は人柄



「学校」は、不思議な場所であると思っています。下は12歳の子供から上は60歳以上の大人が、チャイムという合図に従って行動し、同じ給食を食べ、関わり合いながら生活をしています。それが学校です。子供と関わる仕事に従事していない社会人からすると、私たち教職員はレアな存在と言うことができます。学校の役割を考えると、学力向上は言うまでもありませんが、彼らの心身ともに健やかな育成を目指すことが求められています。また、学校においては、人の心や身体を傷つけても、法律によつて罰せられることは基本的にありません。あるのは説教や指導のみです。

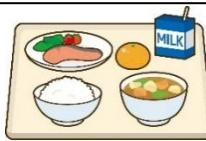
つまり、学校は彼らを守りながら育んでいる特殊な場所と言えます。学級の中では、生徒たちは、多様な考え方や価値観をもって学んでおり、小さな社会が形成されています。生徒たちには、この小さな社会の中で、他者との関わりから学び、「自分さえよければ…」という考え方の間違いに気付き、大人になる準備をしているのではないでしょうか。誤解を恐れずに言えば、私は、学力よりももっと大切なのは人間性だと思っています。

「花は香り、人は人柄」この言葉は、大正・昭和期の哲学者である西晋一郎の言葉として知られています。（諸説あり）この言葉には、花にとってその本質が「香り」にあるように、人にとって最も大切な本質は「人柄（徳）」であるという意味が込められていて、その人の持つ人間性や内面の豊かさが最も重要であるというメッセージを伝えています。生徒の皆さんはこの言葉をどう思いますか？

栄光の足跡

○第39回中学生学校給食献立コンクール

優良賞 谷内 珠乃



○羽咋市読書感想画コンクール

特選 松本恵季咲 桶仕 星那 川邊 桃佳
入選 酒井 紅羽 立中 愛未 池 美乃里

千代 樹奈 金松 祐希 本吉 悠秀

○人権作文コンテスト石川県大会

七尾支局長賞・七尾協議会長賞 梅川 紗奈 安中 詩恵
七尾協議会奨励賞 松田 結衣 道下 りの

○税についての作品【書道の部】

金賞 出村 陽斗
銀賞 森田 樹生 盛田 那心
銅賞 松浦 綾音 本多 愛奈 岩井 心望
佳作 嶋田 裕太 盛田 彩心 松田 奈子 杉村 結那 岩谷 亮良 橋場 仁南



○外部団体所属の競技等

- ・石川県スポーツ少年団剣道交流大会 個人3位 松田 奈子
- ・全日本ビーチ・レスリング選手権大会 3位 岩井 楓芽

学校内外の行事から



★ MIT アプリ開発による能登半島復興プロジェクト（12／12）

1年生が参加したこのプロジェクトは、「中高生にMIT（マサチューセッツ工科大学）が開発したアプリ技術（MIT App Inventor）で教育し、地域の人と一緒に課題を解決し、住みよい能登半島をつくる。同時に、中高生の郷土愛を育み、Uターンを促進する。」ことがそのねらいとなっています。この日は、インストラクターの方々に来校していただき、教えていただきました。生徒たちには、今後もこの活動や経験を通して視野を広げたり、自らの成長を実感したりできるようしっかりと取り組んでほしいと思いました。



3学期の主な行事予定

- 1月 8日 (木) 始業式
10日 (土) 私立高校推薦入試
17日 (土) 石川高専推薦入試
20日 (火) Global Gateway (1年) [午前]
先輩と語る会 (1年) [午後]
29日 (木) English Career① (2年)
30日 (金) 私立高校一般入試
到達度調査 (1・2年)
- 2月 3日 (火) 青春トーク (1年)
5日 (木) English Career② (2年)
6日 (金) 立志の集い (2年)
8日 (日) 石川高専一般入試
9日 (月) 公立高校推薦入試
10日 (火) 3年期末テスト①
12日 (木) 3年期末テスト②
25日 (水) 1・2年期末テスト①
26日 (木) 1・2年期末テスト②
- 3月 10日 (火) 公立高校学力検査①
11日 (水) 公立高校学力検査②
12日 (木) 卒業式予行
13日 (金) 卒業式
18日 (水) 公立高校合格発表
24日 (火) 終業式・修了式・離任式
25日 (水) 定時制高校学力検査
27日 (金) 定時制高校合格発表



編集後記

「探究はなぜつまらないのか」これは、ある高校生が「探究の時間」に設定したテーマです。（『中等教育資料』R7.8月号より）中学校の「総合的な学習の時間」、高校の「探究の時間」は、いずれも教科の枠を超えて生徒が自らテーマを見つけ、課題を設定・解決する力を養う学習です▼本校では、1年は地域を知る（旅行プラン・職業調べ）、2年は地域に学ぶ（職業体験・高校調べ）、3年は地域に生きる（羽咋市への提言）を大きな柱として課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現のプロセスを通じて、思考力・判断力・表現力や主体性、将来の生き方（キャリア教育）を考える力を育んできました▼冒頭の高校生は、「型どおり」「やらされ感満載」の探究の時間に違和感をおぼえていたに違いありません。本校の生徒たちが、答えのありそうなことを調べ、無難にまとめるのではなく、自分が「やってみたい」「なぜだろう」と思うようなテーマを設定し、探究的に課題を解決する活動（本物の学び）を支援できるようにしなければならないと今改めて思っています。（宮下）